

富士スバルライン洞門等の整備について

	頁
1 要旨	1
2 経緯・現状	1
3 現時点での計画(概要)	3
4 遺産影響評価	3
5 遺産影響評価部会	3

富士スバルライン洞門等の整備について

1 要旨

富士スバルライン(富士山有料道路)において、山梨県が主体となり、雪崩対策のために洞門等を整備する。

2 経緯・現状

年 度	内 容
令和2年度	<p>山梨県が富士スバルラインにおける雪崩に関する調査を実施 【調査結果】</p> <ul style="list-style-type: none">●雪崩の到達が予想される14箇所を確認(図1の○箇所)➤過去に雪崩が到達した箇所(13箇所)➤今後雪崩が到達する可能性が高い箇所(1箇所)●14箇所のうち4箇所(坂下洞門、青草洞門、御庭洞門、4合目大沢駐車場の導流堤)は洞門、導流堤により対策済●1箇所(図1のA)は対応中(石楠花橋の災害復旧工事)●残り9箇所(図1のB, C, D, E, F, G(H), I, J, K)については対策が講じられていないため、利用者の安全を確保するための検討が必要
令和3～4年度	<p>山梨県が未対策箇所9箇所のうち優先順位(図2)の高い2箇所(図1のC, D)の洞門増設等の詳細設計を実施</p>

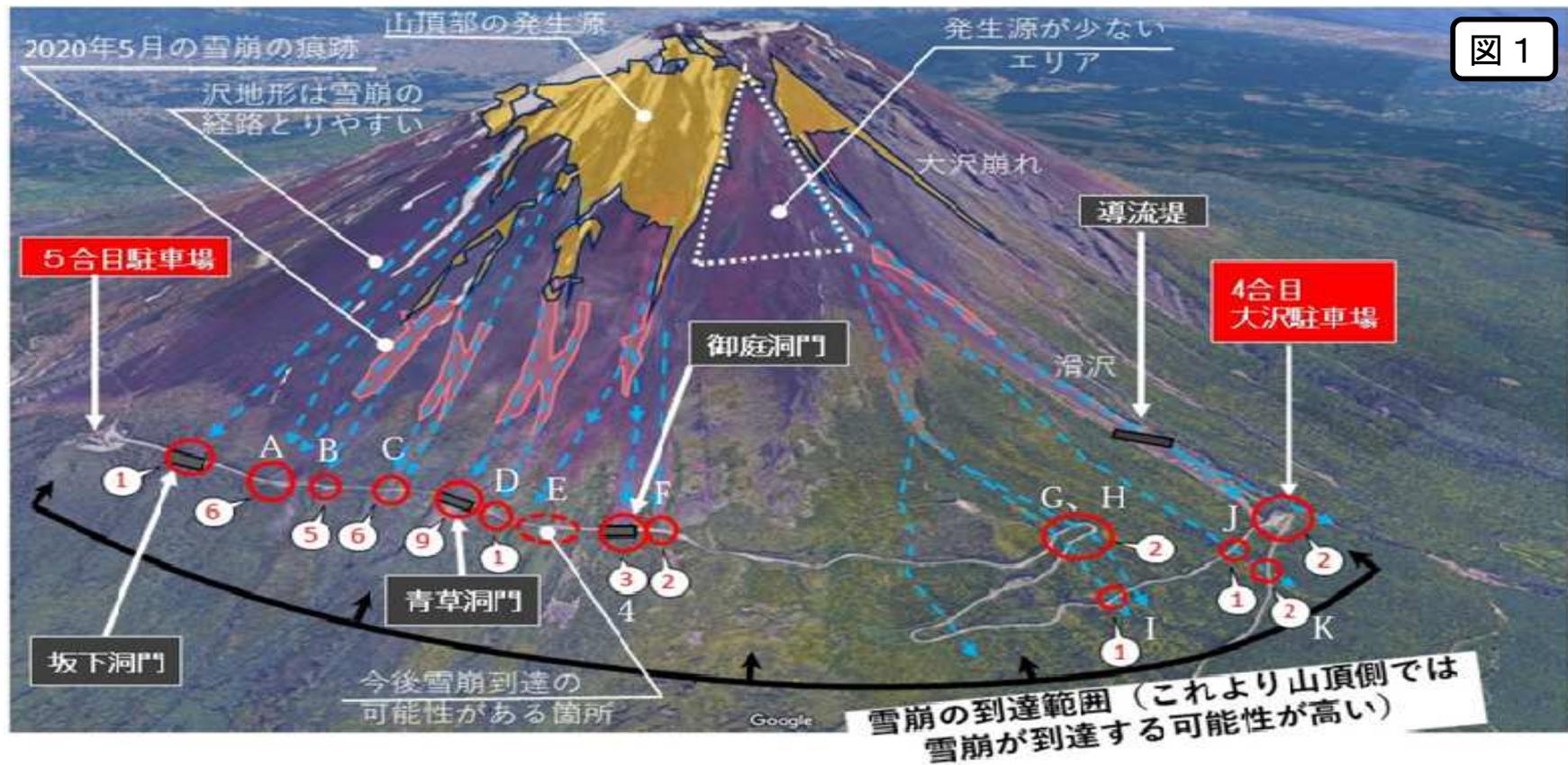


図 1

凡例

- 雪崩到達箇所 (過去に雪崩が到達した所)
- ① 雪崩の到達回数
- 今年発生した雪崩の痕跡 (デブリ)
- 沢地形
- 雪崩到達箇所 (今後雪崩到達の可能性のある所)

未対策箇所9箇所のうち優先順位

- 1位:C(苔桃橋) :6~7回、2021被災、2020痕跡
- 2位:D :1~2回、2021被災、2020痕跡
- 3位:B(石楠花隣) :5回(発生の記録が残るが、位置が不明瞭)
- 4位:F, G(H), I, J, K :1~2回(雪崩の発生源が少ないエリア)
- 5位:E :発生の可能性が高い

図 2

